

Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



2025.08.16

No.016



八地申
第2号

「働きがい」「生きがい」の持てる職場を創り出し、
安全で信頼される鉄道を取り戻す申し入れ

2025年8月6日提出!【No.1】

輸送サービス労組八王子地本は7月18日に、三多摩支部は7月21日に、山梨支部は7月30日にそれぞれ第7回定期大会を開催しました。

これらの大会では、事象を起こしてしまった社員に対する再教育の実態、乗務員職場における休日出勤の実態、一徹体制で運営されている営業職場における異常時対応の実態、会社施策で進められている相互運用における教育不足の実態、異動者や担務変更者を短期間で独り立ちさせる期間ありきの教育実態、安全に携わる社員の削減による一部社員への負担増大の実態など、職場で発生している諸問題について多くの代議員から発言されました。

JR東日本は、2018年7月にグループ経営ビジョン「変革2027」を策定し、“鉄道を起点としたサービスの提供”から“ヒトを起点とした価値・サービスの創造”に転換を目指してから7年後の今年7月にグループ経営ビジョン「勇翔2034」を策定し、“これまでの当たり前を超えグループの持続的成長をステージアップ”することを目指そうとしています。この間、課題を施策 実施により解決していくことを目指して多くの施策が矢継ぎ早に進められましたが、山積する課題は解決されるどころか悪化し、社員の早期退職などの新たな課題も発生し、効率化だけを推し進める施策実施による社員のモチベーション低下は留まることを知りません。

今一度立ち止まり、現実を受け止め、鉄道業であるJR東日本において大前提である「働きがい」「生きがい」の持てる職場を創り出し、安全で信頼される鉄道を取り戻すために下記の通り申し入れました。

1. ワンマン運転化施策により増加した運転士の業務負担、立番廃止施策により増加した車掌の業務負担を軽減することと、これらの会社施策により低下した安全レベルを向上させるために、効率化施策の推進による「安全に携わる社員」の削減をやめ、鉄道運営において必要な「安全に携わる社員」を再配置すること。
2. 倒木・倒竹との衝撃による輸送混乱が繰り返し発生しているが、これまで支社が実施してきた対策の評価を明らかにするとともに、同事象の再発防止による安定輸送の確保に向けた抜本的な対策を講じること。また、ホーム上の除草による車掌の安全確保、線路横の草木伐採による旅客救済や事象発生時の足場確保による乗務員の安全確保に努めるなど、乗務員から除草及び伐採依頼があった際は、安全確保の観点から早急な対応を行うこと。
3. 動物との衝撃による輸送混乱が繰り返し発生しているが、これまで支社が実施してきた対策の評価を明らかにするとともに、同事象の再発防止による安定輸送の確保に向けた抜本的な対策を講じること。また、当該乗務員による「降車し確認が困難」などの判断を尊重し、乗務員と旅客の安全確保を優先すること。
4. 事故・事象が発生した際、当該社員個人の責任追及をやめ、丁寧な原因究明の実施と再発防止に向けた教育・訓練を徹底すること。また、事象が発生したことのみを周知し、会社としての具体的な再発防止対策を示すことなく社員個人の努力・注意力のみに頼ろうとする姿勢を改め、実施した原因究明の結果を含め具体的な事象の詳細・背景、具体的な再発防止対策などを周知・教育すること。
5. 異動者や担務変更者などに対する教育を、何徹業務したら独り立ちといった期間ありきの教育をやめ、当該社員の理解度・習熟度を会話により正しく相互に確認し、希望に寄り添った教育内容・期間とすること。また、独り立ちさせる際は、当該社員との会話により意思確認をしたうえで判断すること。